

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	地域実践力を育成するための海外フィールド実習と教育研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学研究科・准教授	氏名	孫 暁剛
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学研究科・准教授	氏名	孫 暁剛

講演題目
ケニアフィールドワーク実習を通じた地域実践力の育成と教育
研究の目的、成果及び今後の展望
研究目的 「地域実践力」は、国際関係学部で育成する基礎能力の一つである。地域を深く理解し、貢献するためには、地域言語や政治・経済・社会・文化に関する知識を学ぶことに加え、学生自らがこうした知識や情報を収集する力を身につけることが重要である。本研究では、海外フィールドワーク実習を通じて、学生が途上国の現場に身を置き、当事者の視点から地域の現状と課題を理解し、住民のニーズに寄り添った開発・援助のあり方を考察することを目的とする。 成果 2024年12月21日から2025年1月3日（14日間）にかけて、ケニア共和国でフィールドワーク実習を実施した。参加者は、引率教員1名、国際関係学研究科修士課程の学生2名、国際関係学部の学生4名の計7名である。実習に先立ち、引率教員が現地の大学・研究機関、開発・支援に関わるNGOと打ち合わせを行い、以下の2つのテーマを設定し、それに基づいて実習地を選定した。 (1)「ケニアの急速な経済発展に伴う経済格差の拡大と貧困層を対象とした教育支援のあり方」 本テーマに基づき、ナイロビ大学およびキベラスラムにある日本のNGOが支援するマコソスクールを訪問した。ナイロビ大学では学生交流を実施し、エリート学生の学習環境や生活、ケニアの発展に対する意識を理解した。一方、キベラスラムでは、最貧困層の生活の現状やNGOによる教育支援の方法、教育に対する住民の期待について、家庭訪問および保護者へのインタビューを実施した。訪問先の個々人のライフヒストリー調査を通じて、貧困層の教育が子供たちの将来にどのような影響を与えるかについて詳しく知ることができた。これらの活動を通じて、実習学生は発展途上国における経済成長と社会格差の問題について深い理解を得た。 (2)「地域の自然保護と開発の両立の可能性」 本テーマに基づき、ムパラリサーチセンターに滞在し、研究者によるレクチャーを受講し、野生動物の保護、生態学的調査、過放牧地の植生再生、野生動物と家畜の共存など、地域特有の環境問題とその解決策について学習した。そのうえ地域住民の集落と自然保護区を訪問し、住民の生活環境の改善と自然保護活動、女性のエンパワーメント活動についてフィールド調査を実施した。 以上の実習を通じて、学生は地域の自然環境の調査、住民への聞き取り調査、NGOや研究機関の地域に根ざした活動からの学びを通じて、地域実践力を高めることができた。